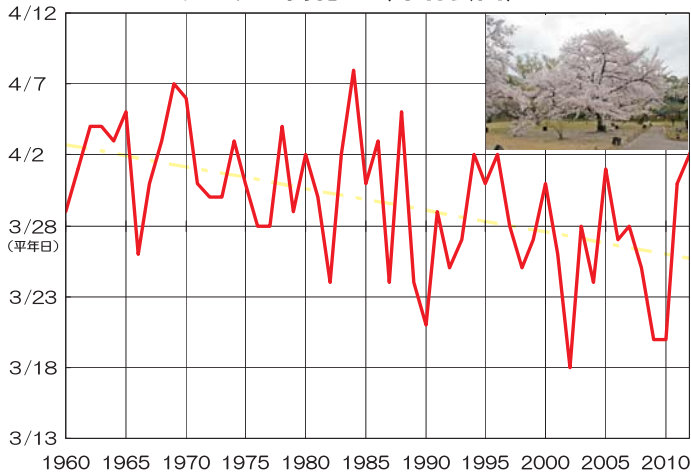


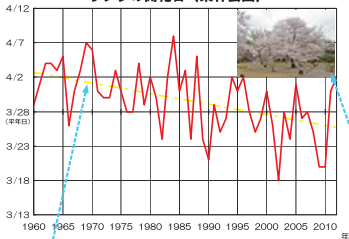
サクラの開花日（栗林公園）



【ねらい】

私たちの身近な香川での温暖化の現状をとらえて、地球の温暖化について関心を高めるとともに、温暖化の原因やその影響について考えさせます。

サクラの開花日（栗林公園）



※黄色の線⇒近似曲線（データの傾向や方向性を視覚的に表したもの）
ものさしやマス킹テープなどをあてて、開花日が早まっていることを確かめてみましょう！

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	○身近な自然環境の様子	○我が国の国土の自然などの様子 ○公害と自然の破壊・生活環境	○世界の国土の自然	○自然の恵みと経済の発展（環境の保全） ○世界平和と人類の福祉の拡大（地球環境、資源・エネルギー） ○よりよい社会を目指して	○生物と環境（自然環境の調査と環境保全） ○自然環境の保全と最先技術の利用		
理科			○生物と環境				
技術・家庭科（環境）				○環境に配慮した生活の工夫			
技術・家庭科（環境）					○環境生活と健康		

【資料解説】

このグラフは、高松地方気象台の観測によるサクラ（ソメイヨシノ）の開花日の経年変化を表したものです。「近畿・中国・四国地方の気候変動2009（2012年改訂版）」によれば、開花日は長期的に見ると、50日あたり6.5日の割合で早くなっています。

※高松地方気象台では、1953年から生物季節観測を行っており、サクラ（ソメイヨシノ）とイロハカエデは、栗林公園内の標本木を観測しています。

※グラフ中、「平年日（3/28）」は、1981年から2010年の平年値です。

出典：かがわの温暖化（県環境政策課）、気象庁高松気象台

【参考】

植物や動物の状態が季節によって変化する現象を生物季節現象といい、その現象の観測を生物季節観測といいます。

生物季節観測の目的は、生物に及ぼす気象の影響を知るとともに、その観測結果からの季節の遅れ進みや、気候の違いなど総合的な気象状況の推移を知ることにあります。気象庁の全国90箇所あまりの気象官署で、サクラの開花・満開、ウメの開花、カエデの紅葉、ウグイスの初鳴、モンシロチョウの初見などの生物季節現象を観測しています。